

うぬぼれの罫

—エゴティズムに関する断章—

高橋 徹（倫理研究所専門研究員）

悪魔は鏡を見るのが好きだった。なにしろ自分は美男子だとうぬぼれていたのだから、鏡さえあれば姿を映して見るのだった

はじめに——うぬぼれの問題点

誰もが持っている大なり小なりのうぬぼれが、その人の可能性を奪っている——このことを心から悟ったら人はどうするだろうか？ 孫子は「敵を知り己を知れば百戦殆うからず」と言ったが、よく言われるように「最大の敵は己」であり、なかでも克己の対象となるのは、うぬぼれがその筆頭であるように思われる。本論ではうぬぼれの働きや性質を述べ、それが人間生活を、自分の生き方を、いかに墮落させているかを明らかにする（ただし、うぬぼれの原因や対処法・処方箋については、紙数の関係で最小限にとどめる）。

2013年の時事通信社配信の記事（2月26日）によると、人には「自分は平均より優れている」という思い込み（優越の錯覚）があり、この錯覚が脳内の異なる部位の連携の強弱や、神経伝達物質に影響されることが、放射線医学総合研究所の研究で明らかにされたという。この研究成果では、多くの人が平均より2割程度「優れている」と自己評価しているとのこと。「自分は平均より優れている」という思い込みは、従来の心理学でも知られていたが、そこに科学のメスが入り込み、少しずつだが、その仕組みが解明されつつあるようだ。

こうした思い込み（優越の錯覚）は、たいていの人が持っているが、それに気づいている人は少ない。だからこそ「思い込み」あるいは「錯覚」と呼ばれる。

この思い込みや錯覚は、人類史的にも、また個人の肉体的な成長や人格形成においても正常な行動や発達を妨げる。たとえば、この思い込みは人類を混乱と荒廃に導き、また個人に〈幸せな人生を歩ませない〉働きがある。

人類史的な例をひとつあげよう。コロンブスがアメリカ大陸を発見したことにより、ヨーロッパは大航海時代を迎え、その後、キリスト教の宣教師たちが福音を携えて「新世界」のあちこちへと向かった。彼らは善意をもって宣教活動を繰り広げたが、その善意の背後には、現地の〈野蛮な〉人たちに自分たちの信仰と教義を伝えようとする熱意とうぬぼれがあった。つまり、ほとんどのヨーロッパ人宣教師たちは、自分たちの文化や生活習慣が、他の文化圏のそれよりも優れていると思い込んで、自分たちは「よいこと」をしているという前提で「教化」に突き進んだ。それが南北両アメリカ大陸はもとより、アジアやアフリカの伝統文化を破壊し、後にその地域を紛争に巻き込み、混乱を助長したことは歴史の伝えるとおりである。

同様のことは個人のレベルでも言える。近年、ジコチュー（自己中心性、自己中心主義）という言葉が若者のあいだで一般化した。そうした性質を前面に出している人はまわりから嫌がられ、敬遠される

ことはもちろんだが、ここにはもっと根深い問題がある。第一に、〈誰もが自己中心的になっている〉という問題が置き去りにされ、単に人を批判したり、差別したりする排他的傾向を学校や企業等の組織内で助長していること。第二に、「ジコチューだと思われたくない」と、人目を気にして、自分の心からの思いを自由に表現できない重苦しい空気を社会全体にもたらしていることである。

以上、二例をあげたが、うぬぼれの問題は根深く、誰にでもかかわり、人の一生を左右しかねない。それにもかかわらず、それを掘り下げ、体系的に叙述している研究がない。また、なぜうぬぼれが生じるのか、なぜ人は自分がうぬぼれていることに気づかないのか、いまもって明確な答えを引き出した人も見当たらない。これは現代人が皆うぬぼれに浸っていて、それがゆえに自分のその状態を正しく見ることができなくなっているからではないだろうか。

本論でもその一部を述べるように、現代の多くの問題はうぬぼれに起因している。ひとりひとりが自分の問題として、そして全人類の問題として、このうぬぼれをなくす方向で真摯に努力しなければ、地球環境の破壊はますます加速するだろうし、近い将来、人類が他の動植物を巻き込んで、滅亡するであろうことは目に見えている。

うぬぼれの根本問題としては、第一に、(うぬぼれによって)人は自分をさしおき、棚にあげる傾向を強めること。第二に、個人としての心(意識)の成長をストップさせること。第三に、自分も他人も正しく見ない、錯覚と迷妄の中に自分を投げ入れてしまうこと、など——とりあげればきりが無い。ところが困ったことに、誰もこの「うぬぼれ」の問題に自覚的に取り組まないために、現代ではこのうぬぼれがかつてないほど蔓延し、慢性化した流行病のように世の中を覆っている。なぜこんなことになったのか、その根本原因および解決策をさぐるものが急務である。こうした〈問題提起〉と〈解決の方向を模索すること〉が本論の目的である。